とうきょう すくわくプログラム活動報告書
2025年度 ウィズブック保育園大岡山

所在地：目黒区

記入日2月

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】
光の存在に気づき、おもしろさ感じてみよう
【問いを考える】
キラキラってどこにあるのかな？キラキラと反対の暗いもの（影）はなんでついてくるのかな？

2. 活動スケジュール

2025年8月～2026年2月

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】
スクリーン、プロジェクター、懐中電灯、ビニール袋、水
【探究活動の内容】
散歩中の影による気づきや、災害訓練中の暗いところで懐中電灯で過ごす経験から、自分たちにとって身近な光と影を感じ・考え、自分たちも一緒に遊ぼうという気持ち・経験を育む。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

散歩中や、水害訓練（停電）の際に、自分たちの身近に、影や光があるんだなということを認識した。そこで、部屋を暗くして懐中電灯であそんでみると、光を目で追ったり、手を伸ばして自ら触れようとする姿がみられた。また、水あそび中でも、水の中に光が差し込むと揺らぎの中で光を救おうとする姿も見られたため、保育者がビニール袋に水を入れて懐中電灯をかざして光を見えやすくしたところ、触ったり、「これなに？」「ぴかぴか」と声を発して興味を示していた。中にはにおいをかぐ子もいた。お月見の行事や絵本から「おつきさま」に興味が広がり、プロジェクターで月を映し出すと、「しろ？」「きろい？」と色を伝えたり、「ぴかぴか」と光っている様子を伝える子もいた。スクリーンを懸命に触れて遊ぶ様子も見られた。光から自分たちについてくる影の存在も気になり「なんで？」と考えたり、保育者の影にそっと触れる子もいたので、いろいろな影を見て触れてあそぶ。「うごいてる！」「おててふってるね」と話すたびに保育者も共感すると、子どもたちはたくさん言葉で思いを表現していた。影に興味をもったので、保育者がプロジェクターを使って遊ぶことを考えた。動物の当てっこゲームをした。子どもたちが興味のある動物の影を、保育者が映し出すと「パオーン？」と動きを手や足で表現してあそんでいた。正解の象の写真が出てくると「おー！」と拍手して周りの友だちと笑って楽しんでいた。

5. 振り返り

今回の活動では、身近な活動中の気づきより、影や光の存在が「なにこれ？」「なんだろう？」という気づきから始まり、観察・推測・実際の体験へと広がりつながっていった。子どもたちの気づきを保育者が共感したり、気づいたことを言葉にして繰り返し伝えていったことで興味関心が高まっていった。光はつかんだり、目で追ったり暗い中や水の中でたくさん光るということを自然と遊びながら学んでいっている様子が見られ、会議の中では保育者自身が「そうなんですね」「おもしろいですね」と大人の興味を引き出されている実感をした。生活の中でも光と影を感じ始め、お迎えが来て家への帰り道で月を見るようになったり、影と触れたり、動きを確認する様子がみられるようになる。保育者が子どもたちの興味を捉え、室内や戸外の活動に組み込むことによって、遊びがどんどん展開し、最終的には動物当てっこクイズまで発展した。鳴き声や動物の特徴的な動きを身体や声で表現して、保育者や友だちに伝える姿が見られた。活動の中、自然と「色」に興味をもったり、自然のサイクル（暗くなると月が見える等）を自身で感じ取り、言葉や身体で表現し、返してくれた大人に対して共感することの喜びや楽しさにつながっていることを、今回の活動で実感した。今後も、子どもたちが自然の仕組みや不思議なことをおもしろいと感じることとへの活動を取り入れていきたい。同時に、自分の想いに共感してもらう喜びを自信へとつなげていけるような活動へと広げ、対話する大切さを育んでいきたい。